

先輩の 声

『MJLC』のメンバーは、素晴らしい先輩たちの姿を見て成長しています。そんな先輩たちに話を伺いました。

岩腰明恵さん（新池町）

岐阜大学教育学部1年。今年から、『MJLC』のアシスタントとして、後輩たちを見守っています。

中学2年生のときに、和歌山県由良町で行われた野外体験学習に参加しました。その時に『MJLC』のメンバーがスタッフとして参加していて、その姿を見て「かっこいいなあ」と思い、中学3年生のときに『MJLC』に入りました。

『MJLC』に入る以前から子どもが好きで、将来は先生になりたいという気持ちがありましたが、人前で話すことができなかつたので、先生には向いていないのではないかと考えていました。しかし、『MJLC』に入ってさまざまな経験を積むことで、人前で話すことができるようになりました。自分が分かっていることを人に説明するのは難しいことですが、子ども会でレクリエーションを教えることで、うまくできるようになり、再び先生を目指す気持ちになれました。

『MJLC』をやっていると、地元の人たちと接する機会が多くなります。美濃加茂の多くの人たちと触れ合い、人の良さを感じて、美濃加茂にずっと住んでいたいと思うようになりました。

今のメンバーは、『MJLC』とともに学校の部活をやっている子どもも多く、忙しくて大変だと思います。そういう中で、子ども会育成者の人たちの「ジュニアリーダーの人たちに、子ども会の会員同士の仲を深めてほしい」という気持ちを受け止めて、それぞれが活動に取り組んでいってほしいと思います。

中島伸一郎さん（西町）

8月に青少年の野外体験交流事業として行われる、『チャレンジみのかも2004inゆら』の実行委員長として活躍中。

中学2年生のときに、アドベンチャーキャンプに参加しました。『MJLC』には、その時にメンバーに誘われて入りました。

『MJLC』に入ってよかったと思うことは、ほかの地区や県の『ジュニア』の子たちと交流会を行い、多くの友達ができたことです。今でも付き合いがある子とかいます。また、関係者の人たちとのネットワークも広がりました。

『MJLC』に入っていたことがきっかけで、ボランティアとかやってきたし、大学も、『MJLC』で自分が活動してきたことを、さらに追求できるようなところを選んで入りました。『MJLC』に入ったのは、今までの自分の人生で、転換期というか大きなポイントでした。

子どもとかかわることが好きな僕は、今年『チャレンジみのかも2004inゆら』の実行委員長をやらせていただいています。運営は、いろいろ大変なこともあります。同じことを思っている人たちと集まって、一緒に一つのことをつくりあげていくことは、けっこう楽しいですね。

今の『MJLC』のメンバーは、自分たちがやりたいと思っていることを、どんどんやっていこうとしていて、すごいと思います。これからもやりたいことを、自分たちで形にして実現してってもらいたいと思います。



見守る人の 声



渡辺 茂さん（太田町）
平成14年度から、子ども会育成指導委員の副会長として、『MJLC』を担当しています。

メンバー一人ひとりとはみんないい子ですが、定例会では、まとまりのなさを感じる時があります。しかし、いざ本番となると、個々が自分のやれることを自然に役割分担して、うまくやっています。

『MJLC』の活動は大人がやるものではないので、口は出さないように心掛けています。違った方向にいったときは、修正してあげないといけないけれど、基本的には、子どもたちに自由に考えてもらっています。

今の子どもたちは、部活や勉強で忙しいですが、月2回の定例会だけは、今現在活動していることが分かるので、遅れてでもいいから出席してほしいと思います。

まだまだ『MJLC』が何をしているのか知らない人が多いので、もっと多くの人に知ってもらいたいですね。